

こころで

見る

奈良

もっともっと
知りたい
奈良⑦

■古都奈良の文化財

今年、「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録されたから、20年になる。

「古都奈良の文化財」は、東大寺・春日大社・春日山原始林・興福寺・元興寺・薬師寺・唐招提寺・平城宮跡の8つで構成されている。

奈良市では、こうした文化財を子どもたちにきちんと伝える取り組みをおこなっており、これを世界遺産学習と呼んでいる。

初めは小学5年生だけを対象としていたが、現在では、幼稚園児から中学3年生までを対象としており、世界遺産に限定せず、自分たちが住んでいる地域の歴史や文化や自然を学ぶ、広くて深い学習になっている。

六条幼稚園の「菜の花プロジェクト」を紹介しよう。

幼稚園の庭で菜種を栽培する。花が咲き、種ができれば、刈り取って乾燥させる。そして種から油を搾り、近くの薬師寺に奉納する。それは薬師三尊にお供えする燈明の油となる。

子どもたちは、菜の花が咲くと、花のにおいや形、種のでき方に興味をもつ。

刈り取った菜種は、天日で乾かす。帰宅する時には教室に入れる。初めは重いのに、乾燥すると軽くなって、一人でも運べるようになる。これが不思議。乾くと色も変わってくる。

十分に乾いたら、みんなで踏んだり、棒で叩いたりして、種を落とす。それから油を搾る。これはおとなの人にやってもらう。油がぼとぼと落ちてくると、「出てきた!」と大喜び。

でもあんなにたくさん種があったのに、とれた油は少しか。油って大事。大切に使うってほしいなあ」と、子どもたちは思い始める。

油を搾ると粕が残る。その油粕を畑にまき、耕して、また種をまく。1年がこうして循環していく。

ふたたび種をまく時に、また薬師寺へ持っていくという思いから、子どもたちの心にはすでに使命感のようなものが生まれている。菜種を大事に育てようという気持ちの前年よりはるかに高まっている。素晴らしい成長である。



今年、平城宮跡に「平城宮いざない館」がオープンした。奈良時代の平城宮を体感できる施設。そこで面白いものを見つけた。パソコンを使って木簡に勤務報告を書き、評価をもらう。

自分の名前をひらがなで入力すると、万葉仮名に変換してくれるのが楽しい。私の1年の勤務日数は365日(太陰暦では存在しない日数だ)。さすがにこれは働き過ぎだ!

文・西山 厚

(帝塚山大学文化創造学科教授)

○10回シリーズ 次回は8月12日(日)掲載予定

PR

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局